

1-1 中央銀行の誕生と進化

世界最古の中央銀行は1668年スウェーデンから。現代のような中銀は、19世紀以降に設立され始めた。

中央銀行の定義は国により様々かつ曖昧で、現在の中央銀行の定義は、①銀行券の発行②最後の貸し手③政府の銀行。

①②は19世紀後半から一部の銀行が、③は19世紀後半から一部の銀行が機能をもつようになった。設立時の目的は、

(英)まず、政府財政のファイナンスとしての役割、その後、①&②の役割をもつようになった。

(日)戦争での不換紙幣(金などと交換できない紙幣)を整理し効率的な金融市場を作るために設立。

(米)通貨の弾力的供給のために設立。←銀行間での決済・季節的な資金需要(=②?)

中央銀行設立の主目的

通貨の供給。決済システムの運営。金融・銀行システムの安定化

→金融政策や物価安定のためではなかった。経済の持続的な発展へ貢献のため。

1-2 中央銀行通貨と民間銀行通貨

中央銀行の主役割 通貨の供給。←①決済手段②計算単位③価値の保存手段

①の役割を果たすためには“安心感”が必要。

中央銀行通貨=銀行券(現金)+中央銀行当座預金(中央銀行の口座) ?銀行券と貨幣の違いは?

中央銀行口座の金利は民間銀行より一般に低い。現金は小口決済、口座は大口決済に使われ、中央銀行は(基本的に)潰れないから安全な決済手段として使われる。また、支払い完了性をもつ。(ある民間銀行を介して決済する場合は、取引相手に渡った時点で決済終了とするが、中央銀行の場合は中央銀行の口座で決済した時点でDone扱い。)

(民間銀行通貨…民間銀行が発行する通貨。信用リスクあり。広義の通貨でしかない。)

マネーサプライ

定義=中央銀行・民間銀行以外がもつ通貨。(国によって通貨の範囲、通貨保有主体の範囲が異なる。)

定義(日本) マネーサプライ=M2+CD 但し、M2=M1(=現金+預金)+準通貨(=定期預金), CD=譲渡性預金

1-3 中央銀行のバランスシート

中央銀行口座をもつのは、金融機関のみで、金融機関同士の決済に使用される。

公開市場操作(オペレーション)=中銀が民間銀行等に資産の売買をして、通貨の供給を調節すること(民間銀行への与信)

オペは2種類あり、一時オペ=有担保での資金を供給、永続オペ=長期国債の売買。

「中銀はバランスシートのおおきさ・構成を変えて、政策を実践する。」 ⇔ 政策を行うと、必ずバランスシートに影響を及ぼす。

1-4 中央銀行の活動と金融政策

① 決済サービスの提供。(多額が日々決済されている)→安全・効率的な決済方法の提供。

② 最後の貸し手。流動性の提供、システミック・リスクの防止(金融仲介機能の崩壊を防ぐ)

③ 物価安定(のための金融政策の運営) …供給量の増減による金利のコントロール

④ 金融機関への規制・監督

⑤ 政府の銀行

→まとめると、①金融システムの安定化・効率化 ②物価の安定

現代では①はすでに発達しているので、今後②にフォーカスして議論。

金利調整・流動性供給・資源の配分調整をすることで → → → 経済の持続的な成長へ